

令和5年度大分県学力定着状況調査ならびに

令和5年度全国学力・学習状況調査の結果と分析について

由布市教育委員会

本年度、4月18日に実施された「令和5年度大分県の学力定着状況調査」ならびに、4月25日に実施された「令和5年度全国学力・学習状況調査」の結果についてお知らせいたします。

1 学力調査結果の分析

(1) 小学校における学力の状況

「令和5年度大分県の学力定着状況調査」＜図1参照＞

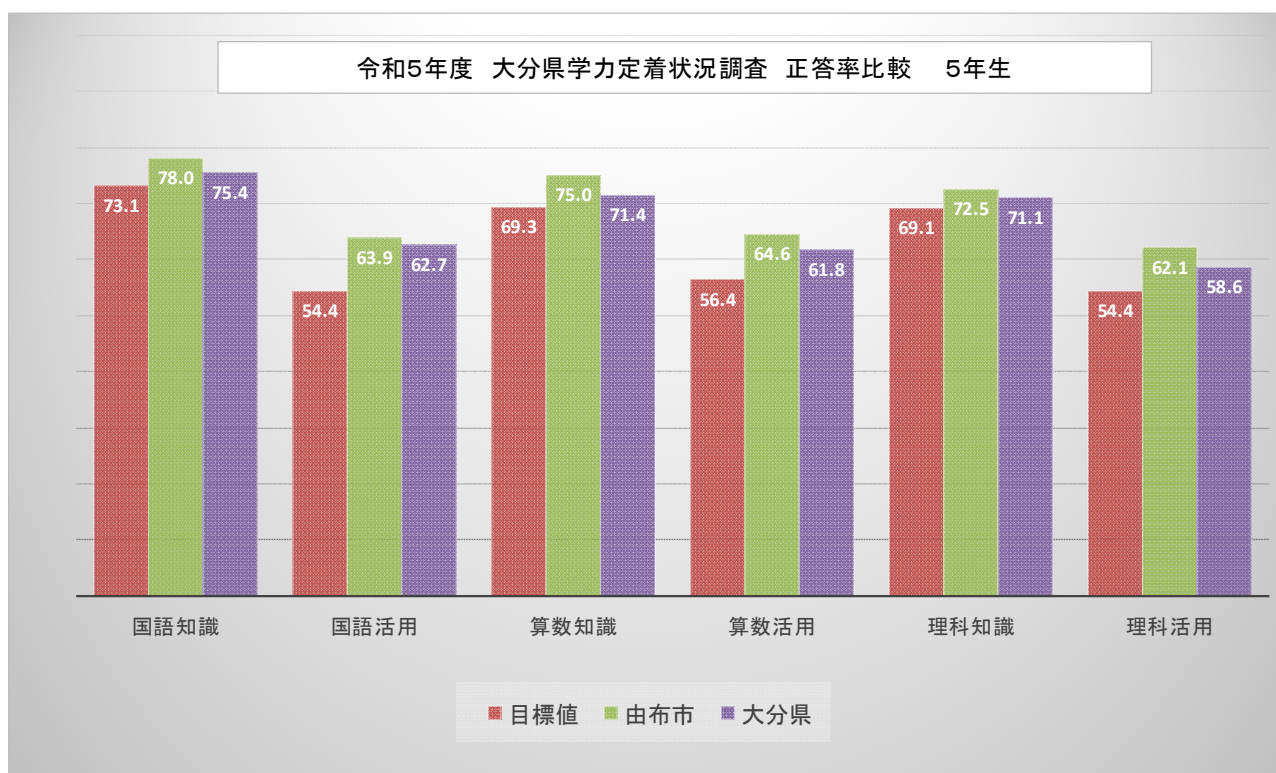
小学校では、第5学年で、国語・算数・理科の調査が実施されました。

○5年生では、国語の知識と活用、算数の知識と活用、理科の知識と活用の全てで「目標値※注1」を超えました。

○また、全ての項目で県の正答率を超えました。

※注1 学習指導要領に示された内容について、正答できることを期待した児童生徒の割合。
多くのデータを基に、テスト作成業者が算出したもの。

＜図1＞ 教科別正答率「小学校5年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県



「令和5年度全国学力・学習状況調査」＜図2参照＞

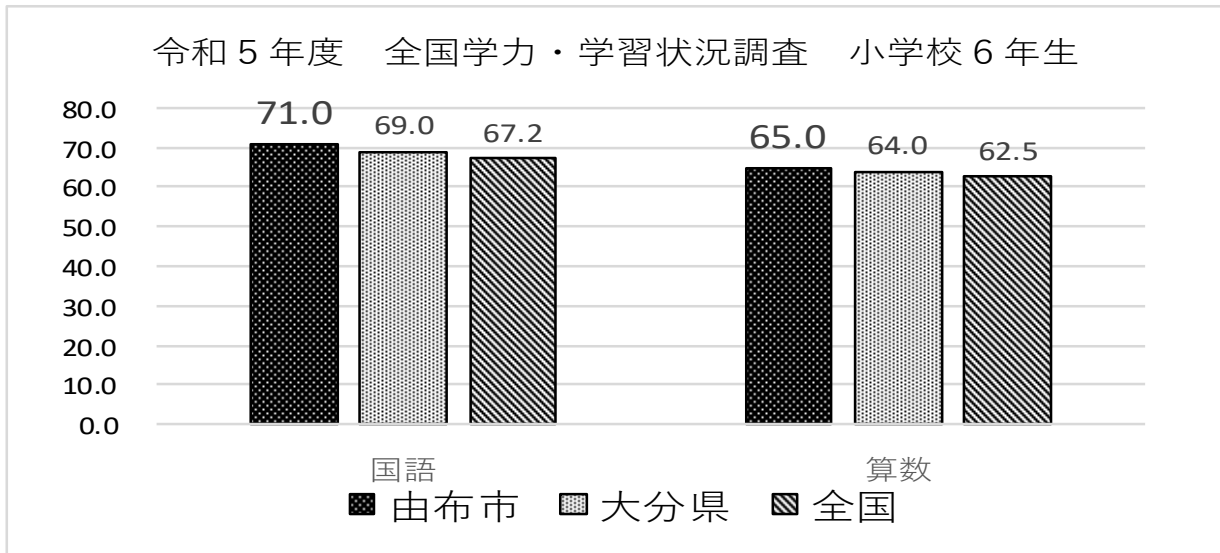
小学校では、第6学年で、国語・算数の調査が実施されました。

○6年生では、国語、算数ともに、全国及び県の「正答率」を超えました。

○「知識・技能」「思考・判断・表現」の各観点とも、全国及び県の平均を上回っています。その中でも特に、国語では「読むこと」、算数では「図形」で好成績をあげています。

＜図2＞ 教科別正答率「小学校6年」

※棒グラフは左から由布市、県、全国



「小学校における学力向上計画」

① 小学校低学年から取り組む学力向上

由布市においては、小学校1年生から将来を見据えて、子どもに「学習の理解」とともに「学習の仕方」を身につけることも目指しています。その結果、授業における話し合い活動（協働的な学習）がうまくなされるようになり、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。一方で、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、算数における計算力（スピード）をつけることについては依然として課題があります。

「積み重ねが大切」「身につけるまでには時間が必要」という性質上、学力調査の当該学年だけが対策をするのではなく、低学年時期から組織的・計画的な取組を進めています。

② 学力調査の結果分析をもとにした授業改善

＜国語＞

▲文章を読んで感じたことや考えたことを共有する。

▲原因と結果など情報と情報との関係について、理解している。

＜算数＞

▲切り捨てて計算した結果が目的に合う理由を説明している。

▲伴って変わる2つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

＜理科＞

▲空気のあたたまり方を理解している。

▲直列つなぎにした方がいいと判断した理由を、実験の結果を根拠として説明できる。

＜課題解決に向けて＞

「共有している」→「精査・解釈を通して行われる」もの。よって、登場人物の行動や会話、様子などを表している複数の叙述を結びつけ、人物像（性格や考え方）を捉えさせた後、考えを交流し、再度、自分の考えを見直す学習を取り入れるよう指導していきます。また、「事実（結果）と考え」、「原因と事例」等の意味理解を深めるとともに、授業の中で、書かれている内容がどれに当たるか意識して読みを深める学習をします。

「切り上げ、切り捨て、四捨五入」の方法を習得するとともに、日常場面と関連付けて、それぞれの良さを実感させます。

（例）①切り上げのよさを実感させる指導

1000 円持って買い物に行きます。マジック 468 円、ペン 288 円、えんぴつ 148 円を買う場合、1000 円で足りるでしょうか。

②切り捨てのよさを実感させる指導

防災グッズを 4000 円以上買うとくじ引きができます。次の 3 つを買うと、4000 円以上になるでしょうか。かんづめセット 2100 円 電池 1350 円 水 1010 円です。

また、比例を使った問題において、表がなくても比例の性質を活用できるよう本問のような問題にチャレンジする必要があります。さらに、「表を横に見る視点」「1 あたりの量を求めてから計算する視点」の 2 つの考え方があることを扱っていきます。

実験のまとめを視覚的に行うことも効果的です。空気のあたたまり方を、言葉だけでまとめるのではなく、色鉛筆等で図示させ視覚的に理解させていきます。

また、「自分の考え」や「実験結果から言えること」を記述で説明する学習も必要です。

これらの課題解決に向けた補充学習の取組や指導法工夫改善教員・指導教諭・授業力向上アドバイザーといった学力向上に特化した教員からも発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

（２）中学校における学力の状況

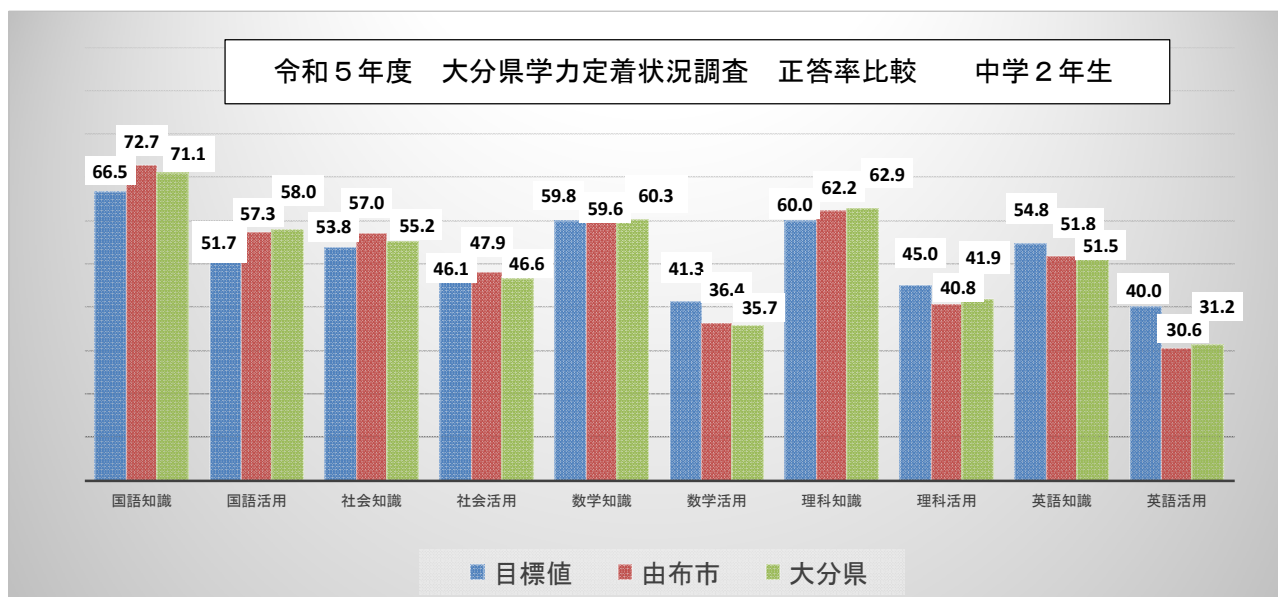
「令和 5 年度大分県の学力定着状況調査」＜図 3 参照＞

中学校では、第 2 学年で国語・社会・数学・理科・英語の調査が実施されました。

○ 2 年生では、国語の知識と活用、社会の知識と活用、理科の知識で、「目標値^{※注 1}」を超えました。

○ 国語の知識と社会と活用は県の正答率も超えています。活用問題は社会以外の正答率が県の結果を下回っているため、さらに取組を進める必要があります。

＜図 3＞ 教科別正答率「中学校 2 年」 ※棒グラフは左から目標値、由布市、大分県

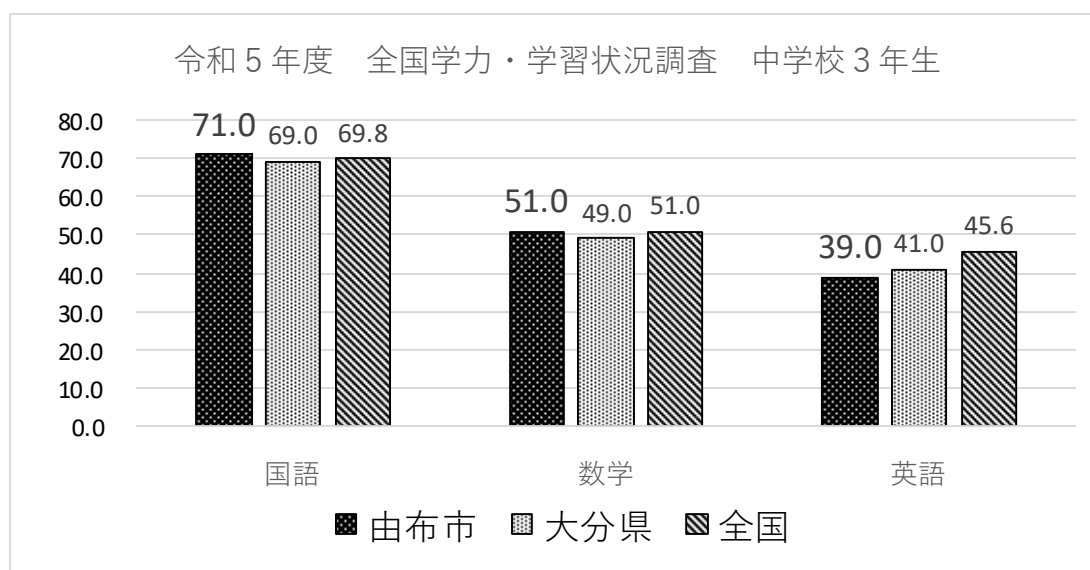


「令和 5 年度全国学力・学習状況調査」＜図 4 参照＞

第 3 学年で、国語・数学の調査が実施されました。

○国語は県や全国値を上回り、数学は県を上回り、英語は県や全国を下回りました。

＜図 4＞ 教科別正答率「中学校 3 年」 ※棒グラフは左から由布市、県、全国



「中学校における学力向上計画」

① 小学校から引き続く学力向上

小学校の部分でも記述したとおり、中学校においても「学習の仕方」を身につけていくことがここ数年の課題です。

授業における話し合い活動（協働的な学習）の充実は、中学校の授業でも活用されており、子どもの主体的な学習の姿が確立されてきています。

小学校と同様、問題の読解力（速く読み取る力・要約力や情報処理能力）や、数学における計算力（スピード）をつけることは、現状では改善できていません。このことは、小学校段階でさらに重点的に取り組む必要があります、それによって中学校の改善の効果が上がると考えます。

② 学力調査の結果分析をもとにした授業改善

<国語>

▲文節の関係について理解している。

▲二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する。

<数学>

▲関数の意味理解⇒「○は、△の関数である」の意味理解

▲自然数の意味を理解しているかどうかをみる。

<英語>

▲メールを読み、その要点を捉えて英文を完成させる。(活用・短答)

▲日常の話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる。

<課題解決に向けて>

文節の関係、特に主語は「○○は」「○○が」ではない形もあることを理解する必要があります。例えば、「妹は笑っていると私もうれしい」では、述語に対応する主語は何？嬉しいのは誰？」のように、述語から主語を見つけていく指導をすすめます。また、「敬体と常体」「問いかけの文」「冒頭の一文に結論がある文」「言葉を引用している文」等の表現の効果についての理解が不十分であることが考えられるため、それらの技法を自分で見つける経験を不足が考えられます。教科書で表現の技法を学習した際、単元末において、表現の効果を自分で見つける学習が効果的です。教科書とは違う文章を取り扱うことも大切です。

「 y は x の関数である」を例におさえる必要があります。「ともなって変わる2つの量」から「関数である」ことを学んだ際、「 y は x の関数であるといえるか？」の問題に対して、「言える」「言えない」で回答する練習問題が多いので、「料金は、コピーの枚数の関数である」のように文章で表現することにも慣れる必要があります(様々な表現方法に慣れさせる)。また、自然数と整数が混同しているため自然にあるものを数える数。1つ、2つ、・・・だから、1から数えます。数直線にして、視覚的に理解させることも大切です。

英語の長文で要点を読み取るためには、一文ずつ解説しながら全体の理解につなげるボトムアップの読み方だけでなく、文章全体を読んで大切な部分の捉えさせる読み方も指導します。生徒の気づきを引き出しながら指導です。「何について、書かれていますか」「なぜ、それが分かりますか」「それから・・・」等、読む目的に応じて要点を把握させるとともに、文章から取り出した情報をもとに、自分の考えを話したり書いたりするなど、領域間の統合的な言語活動を行います。本問題では「いつ到着して、いつ帰るのか」が分かればできる問題。最近、送られたメール文を一読した後、条件に従って考える問題が多いので、まずは、送られたメール文の大まかに読み取る練習をする。「いつ・どこで・誰が・何をする」について捉えることの練習が大切です。本時では、メール文から、「土曜日に午後に到着して、日曜日の午後4時前には、出発する」ことを理解しておけば、選択が可能でした。

中学校でも、小学校同様、これらの課題解決に向けた補充学習の取組や指導教諭・授業力向上アドバイザーといった学力向上に特化した教員からも発信し、組織的に取り組めるようにしていきます。

＊県調査および国調査から考えられる由布市共通の取組

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">○<u>学校全体で統一した取組</u>○<u>授業改善の充実</u>○<u>ていねいな家庭学習・補充学習</u> |
|--|

＊上記３点の取組を今後も実施するとともに、小・中学校の連携や学年・教科を超えた組織的な学力向上の取組も行っていきます。

授業改善と補充学習の取組をいかに充実させていくかが重点であると捉えています。

2 意識調査結果の分析

(1) 全国学力・学習状況調査の児童・生徒質問紙からわかる状況

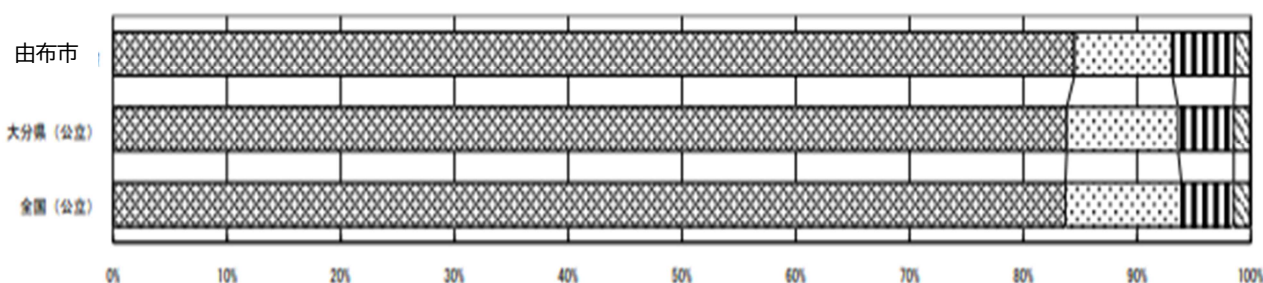
全国学力・学習状況調査では、児童・生徒に様々な質問をしています。その様子からも、学習習慣や生活習慣が推測されます。注目すべき点を紹介することで、保護者や地域の皆様にも知っていただき、よりよい学習習慣や生活習慣の形成に役立てたいと考えています。

「小学校における学習習慣・生活習慣の状況」 小学校6年

①基本的な生活習慣について

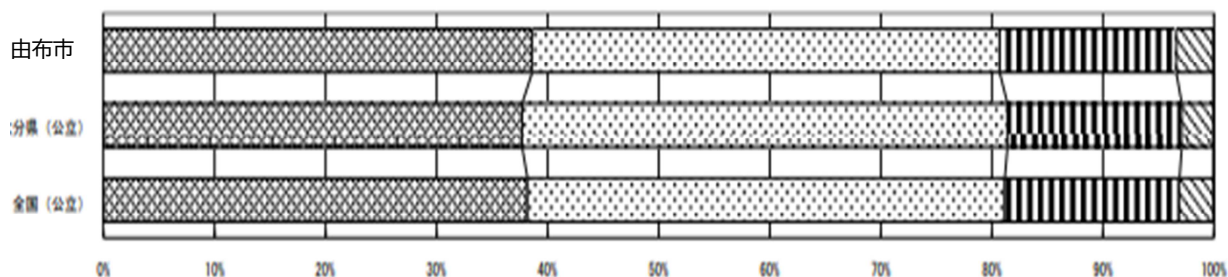
Q 1. 朝食を食べていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3あまりしていない 4 全くしていない



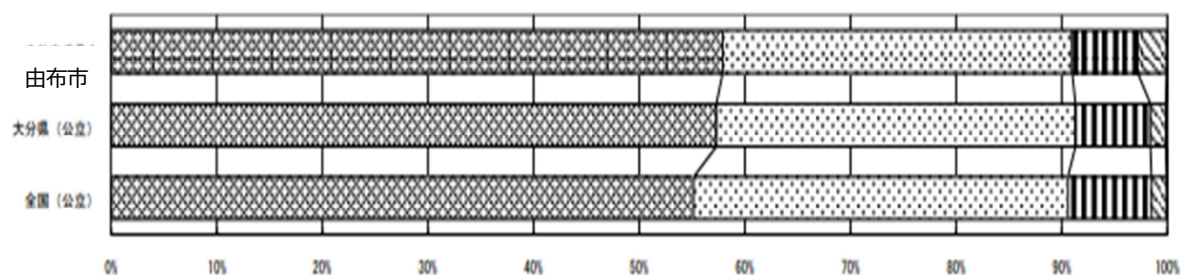
Q 2. 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3あまりしていない 4 全くしていない



Q 3. 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

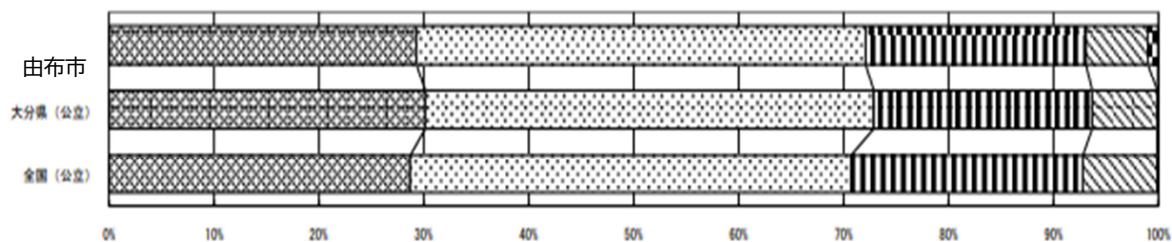
1. している 2. どちらかといえば、している 3あまりしていない 4 全くしていない



②学習習慣について

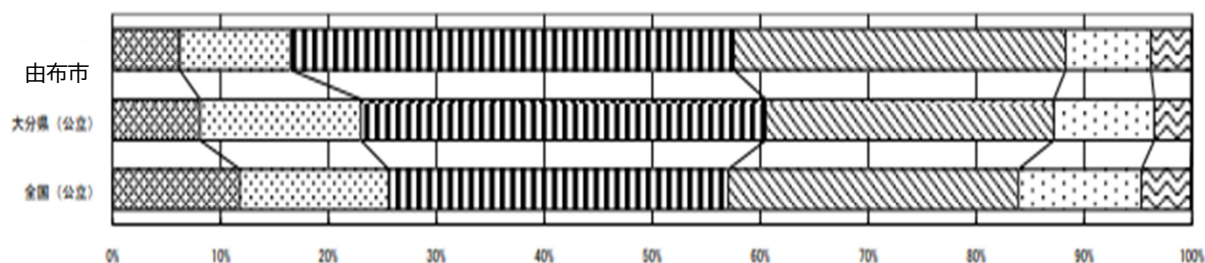
Q 4. 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。

1. よくしている 2. ときどきしている 3. あまりしていない 4. 全くしていない



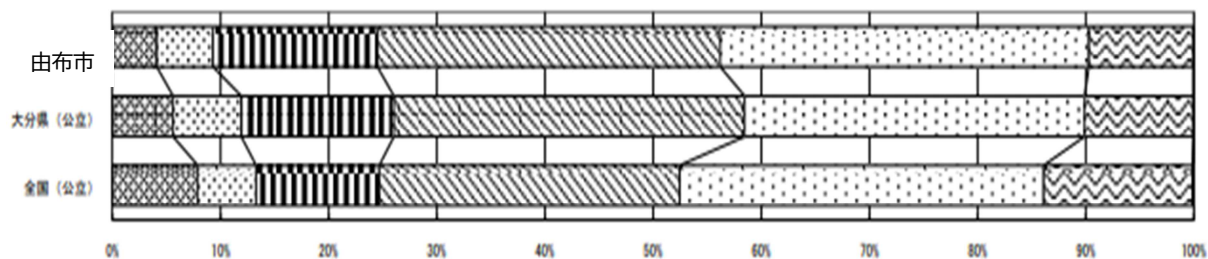
Q 5. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない 4. 30分以上、1時間より少ない



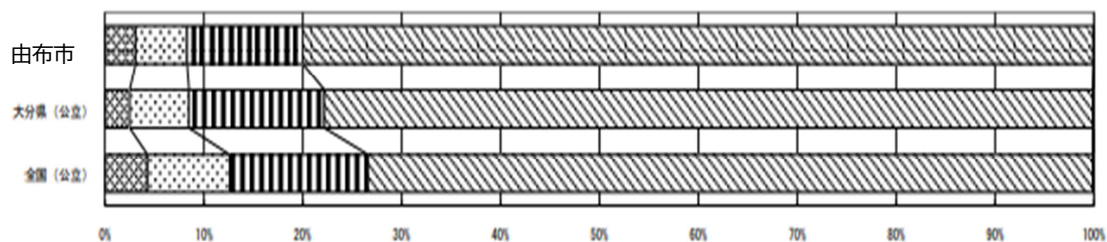
Q 6. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 4時間以上 2. 3時間以上、4時間より少ない 3. 2時間以上、3時間より少ない 4. 1時間以上、2時間より少ない
5. 1時間より少ない



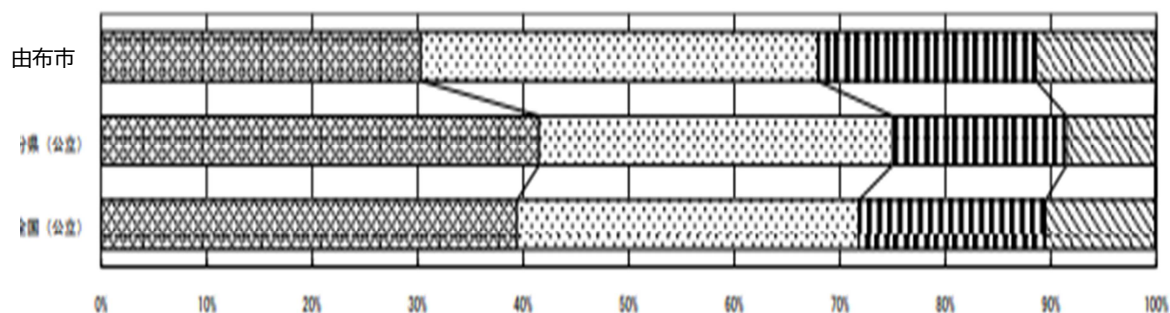
Q 7. 新聞を読んでいますか。

1. ほぼ毎日読んでいる 2. 週に1～3回程度読んでいる 3. 月に1～3回程度読んでいる 4. ほとんど、または、全く読まない



Q 8. 読書は好きですか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない

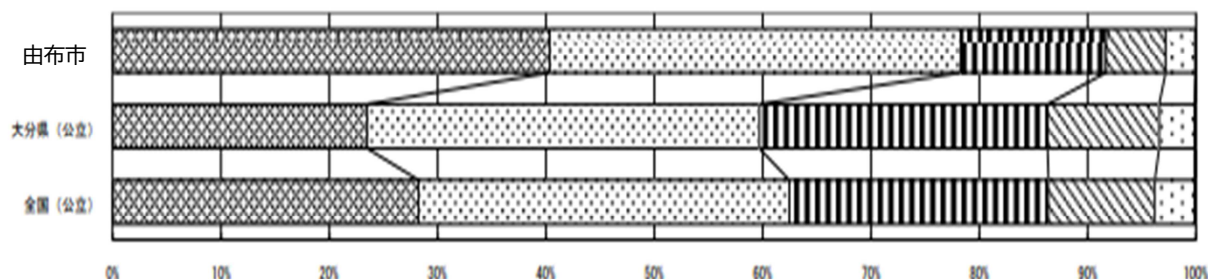


＊「定期的に新聞を読むこと」については、「読まない」児童の割合が、県や国と比べて高いと言えます。「読書が好き」についても、肯定的回答の割合が低い状況があります。授業等で図書館を活用したり、新聞を活用したりする学習を取り入れていくことを並行して、低学年のうちから、本に親しむ環境作りの大切さを保護者にも啓発していくことも必要と言えます。今後、児童と保護者には、読書することの効用「集中力がつくこと」「記憶力がつくこと」「脳のつながりが強化されること」等から、読解力がつくことに結びつくという話をしていく必要を感じます。

③授業改善について

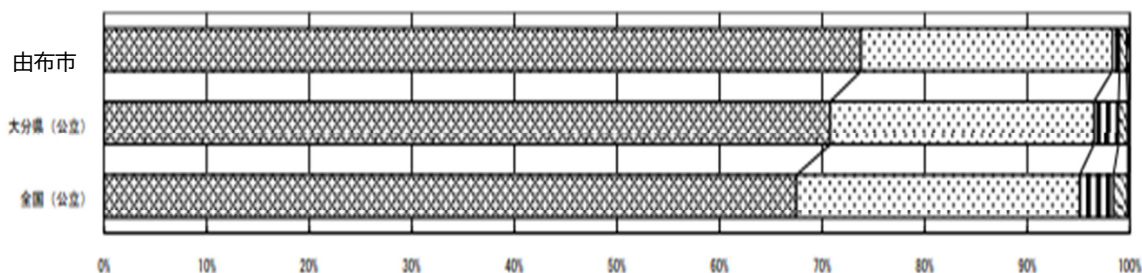
Q9. 5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使用しましたか。

1. ほぼ毎日 2. 週3回以上 3. 週1回以上 4. 月1回以上 5. 月1回未満



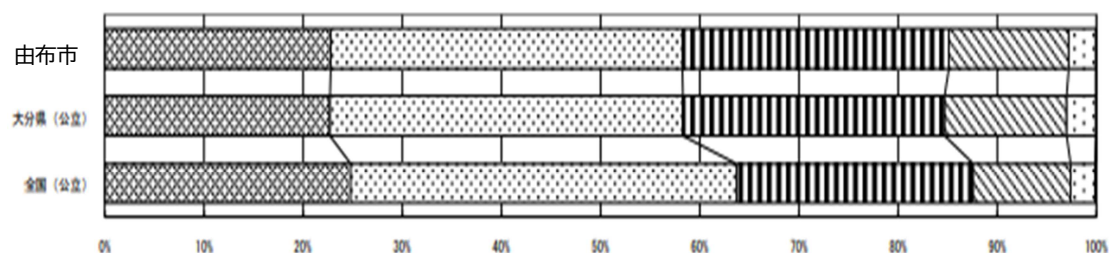
Q10. 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

1. 役に立つと思う 2. どちらかといえば、役に立つと思う 3. どちらかといえば、役に立たないと思う 4. 役に立たないと思う



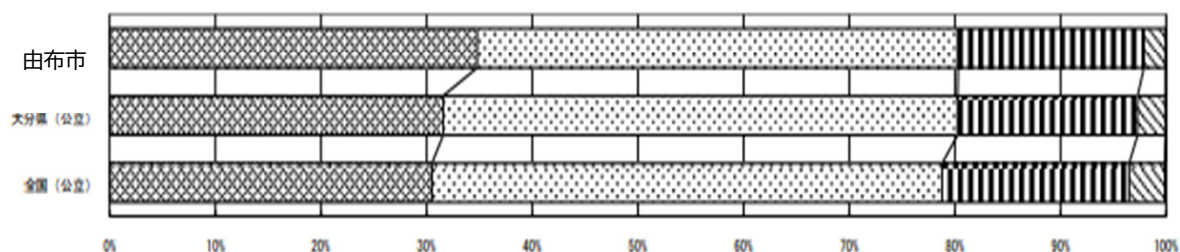
Q11. 5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して 発表していましたか。

1. 発表していた 2. どちらかといえば、発表していた 3. どちらかといえば、発表していなかった
4. 発表していなかった 5. 考えを発表する機会はなかった



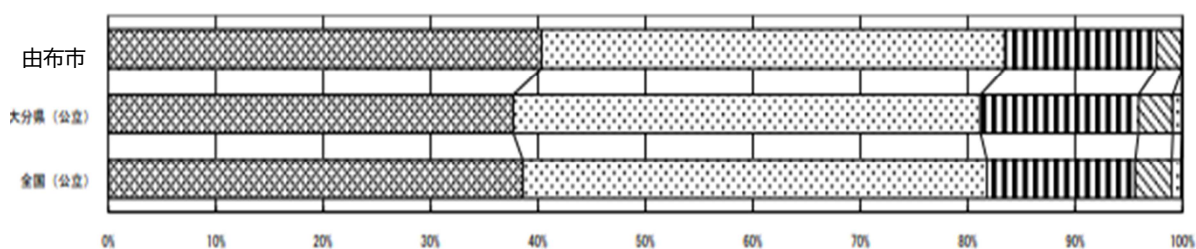
Q12. 5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない



Q13. 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない
5. 学級の友達との間で話し合う活動を行っていない



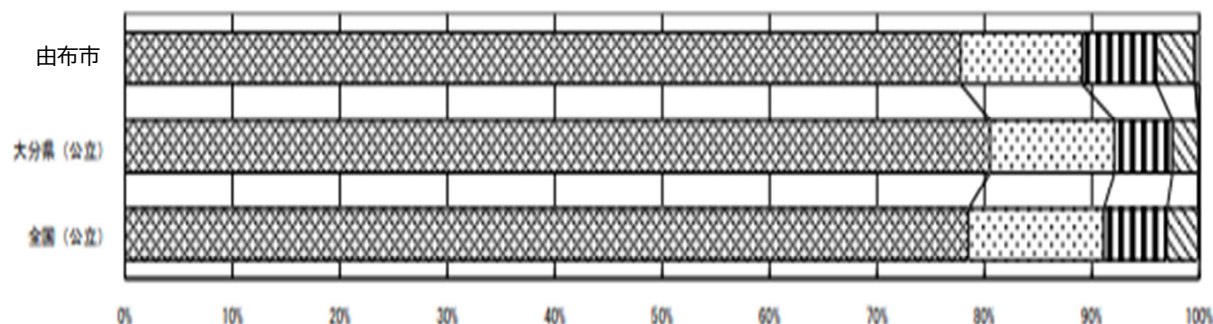
*児童は、授業においてタブレット端末を使用しているという意識が県や全国の児童よりも高く、役に立つと考えながら学習に取り組むことができています。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」という意識も高いです。一方、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」という意識には至っていない。自分の表現を工夫する場面において、タブレット端末の活用の工夫も含めた取組と「振り返りの充実」を通して、「この写真を取り入れたから、説明が分かりやすかった」「文章の書き方を見直したから、意味が分かりやすくなった」等を自己評価や他者評価をして実感を伴う指導を取り入れていきたいと考えます。

「中学校における学習習慣・生活習慣の状況」 中学3年生

①基本的な生活習慣について

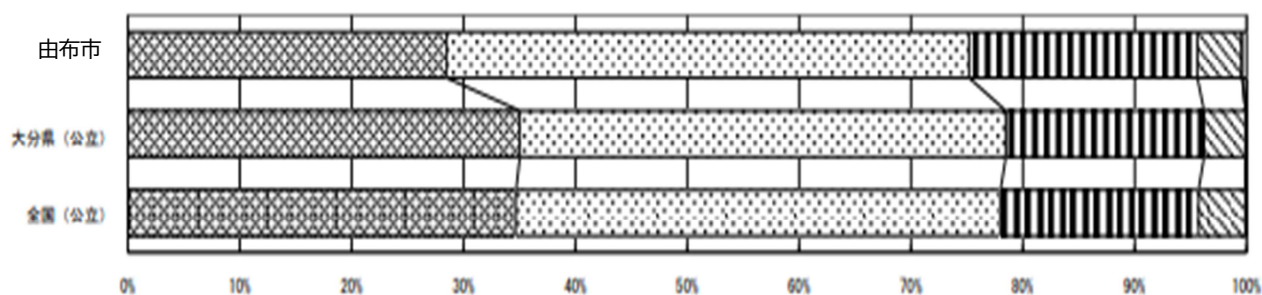
Q 1. 朝食を毎日食べていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない



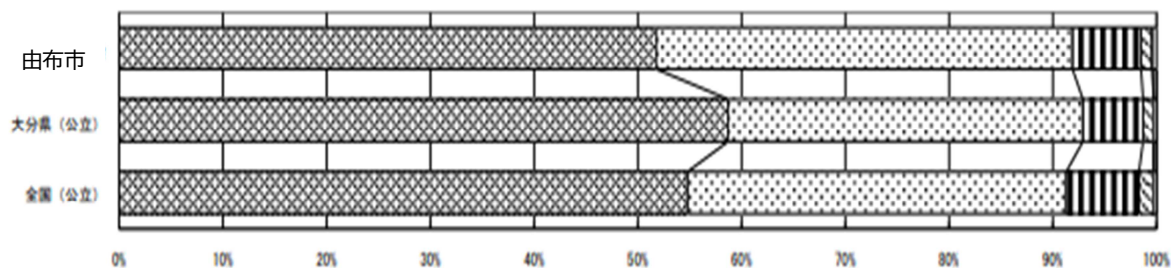
Q 2. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない



Q 3. 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。

1. している 2. どちらかといえば、している 3. あまりしていない 4. 全くしていない

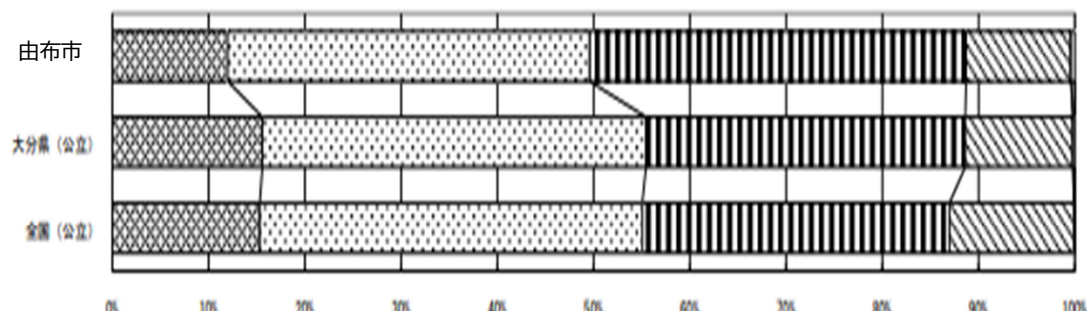


＊「朝食を毎日食べている」「毎日、同じ時刻に起きている」割合は県や全国と比べてあまり差がありません。しかし、「毎日同じくらいの時刻に寝ている」割合が、県や全国に比べて低い傾向が見られます。部活動や習い事がある日が含まれているため、多少の差が出てくるのは仕方ありませんが、週末とはいえ夜更かしがあるのであれば、習慣にならないような取り組みを、学校と家庭が協力して進めていくと学習を支える環境作りにつながります。

②学習習慣について

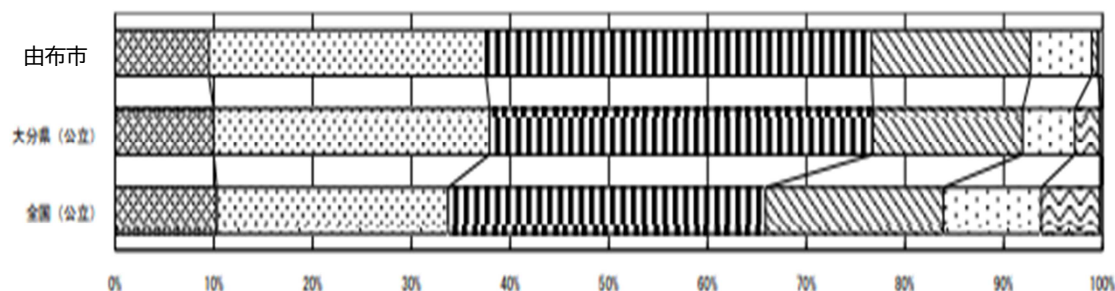
Q 4. 家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）。

1. よくしている 2. ときどきしている 3. あまりしていない 4. 全くしていない



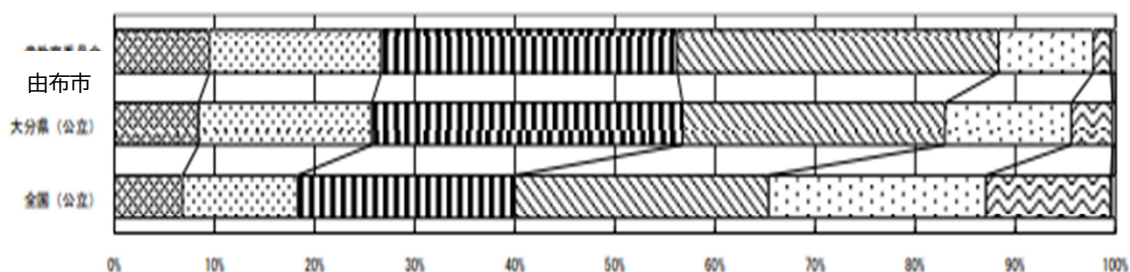
Q 5. 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 3時間以上 2. 2時間以上、3時間より少ない 3. 1時間以上、2時間より少ない
4. 30分以上、1時間より少ない 5. 30分より少ない



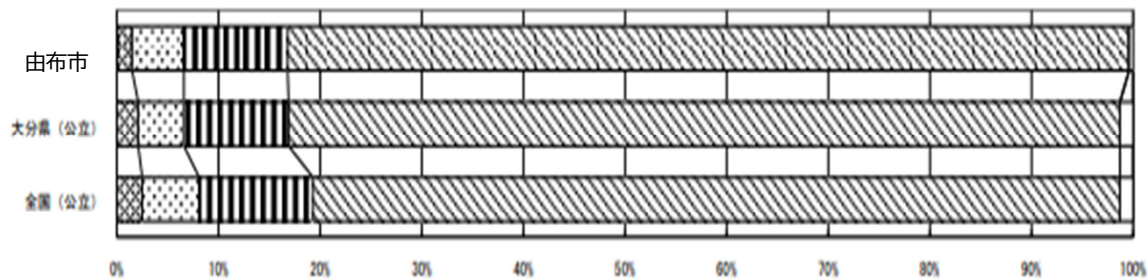
Q 6. 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。

1. 4時間以上 2. 3時間以上、4時間より少ない 3. 2時間以上、3時間より少ない
4. 1時間以上、2時間より少ない 5. 1時間より少ない



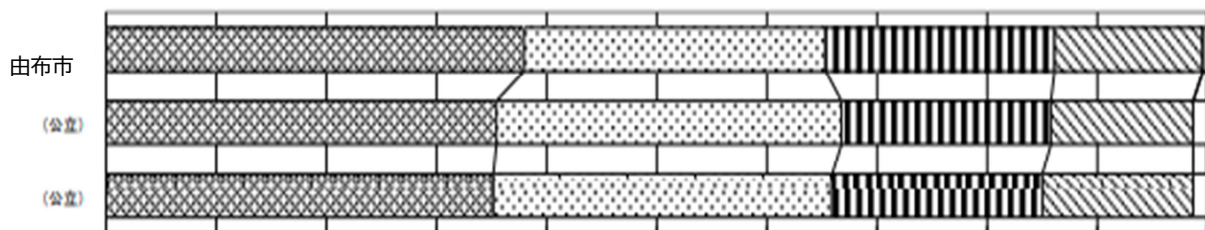
Q 7. 新聞を読んでいますか。

1. ほぼ毎日読んでいる
2. 週に1～3回程度読んでいる
3. 月に1～3回程度読んでいる
4. ほとんど、または、全く読まない



Q 8. 読書は好きですか。

1. 当てはまる
2. どちらかといえば、当てはまる
3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない



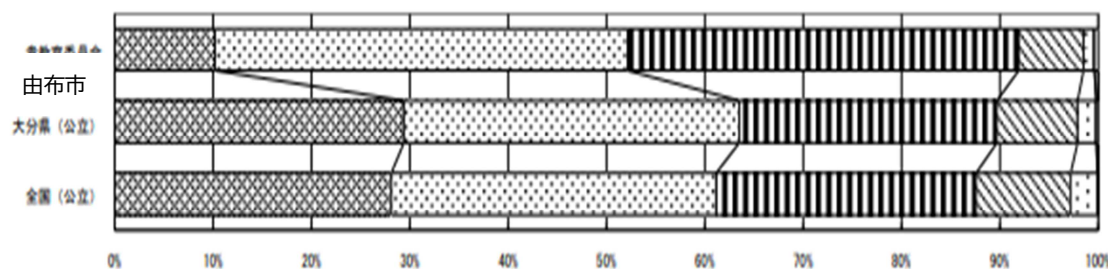
* 勉強時間については、平日・休日とも、県や全国よりも高い傾向があります。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強をしている」という割合が県・全国と比べて低く、新聞を読む生徒の割合も少ないです。「家庭での過ごし方の計画表を自ら立て、保護者とともに頑張りを振り返る」という取組を長期休業中だけでなく、定期的実施していくことも考えられます。進んで取り組む姿勢は、「学習する意義の理解」「進路に向けて必要なもの」等、自分なりに学習に取り組む目標づくりが必要です。各中学校においては、キャリア教育や進路指導の時間で、さらに、それを支えるために「ご家庭の協力」もいただきながら、取り組みを進めていく必要を感じます。

読書については、県・全国と同程度。新聞については、「とっていない」家庭も多いため全員の取り組みにすることはできませんが、「読む力がつくこと」「書いている内容の大体が分かるだけでも、読みの力がついていること」「知らない漢字を漢字辞典で調べ、一日に一字だけでも読めるようになると、将来の自分に役立つこと」「見出しだけでも目を通せば、世の中で起きていることがなんとなく分かること。」そのことについて、「周りの大人に質問すれば、もっと地域が広がるということ。それが、中学校や高校になっても役立つということ」等、児童と保護者にも「新聞の効用」を伝えていきたいものです。

③授業改善について

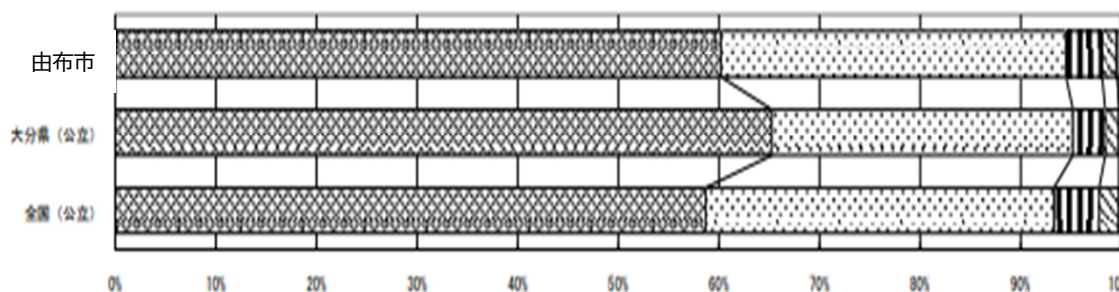
Q 9. 1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどの ICT 機器を、どの程度使いましたか。

1. ほぼ毎日 2. 週 3 回以上 3. 週 1 回以上 4. 月 1 回以上 5. 月 1 回未満



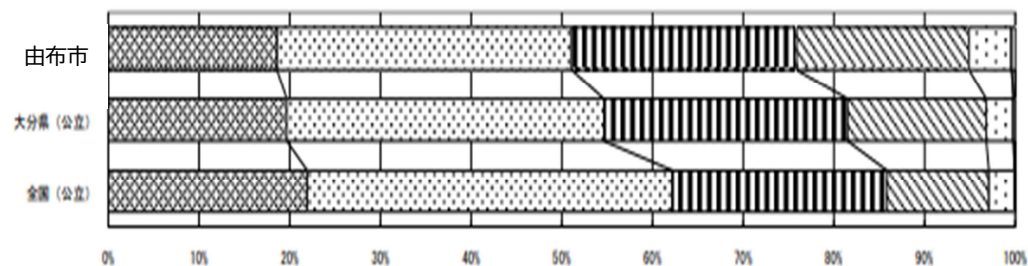
Q10. 学習の中で PC・タブレットなどの ICT 機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

1. 役に立つと思う 2. どちらかといえば、役に立つと思う
3. どちらかといえば、役に立たないと思う 4. 役に立たないと思う



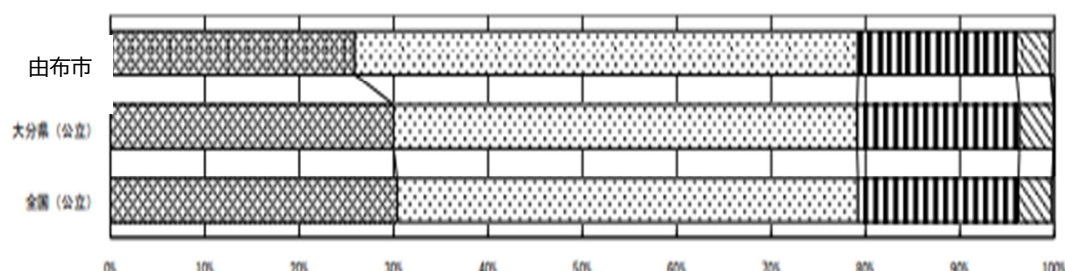
Q11. 1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

1. 発表していた 2. どちらかといえば、発表していた 3. どちらかといえば、発表していなかった
4. 発表していなかった 5. 考えを発表する機会にはなかった



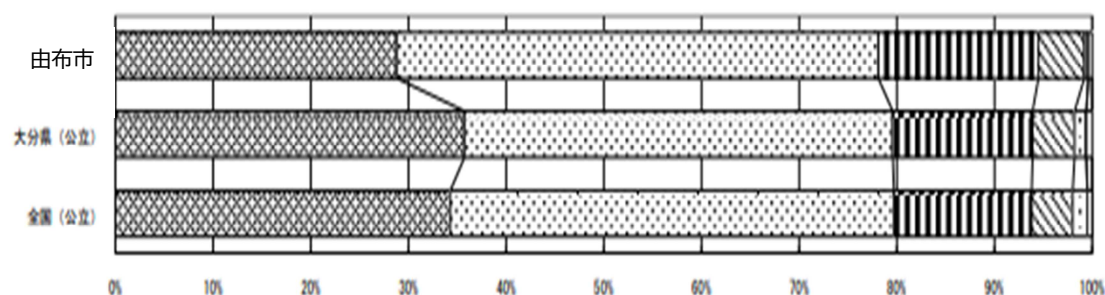
Q12. 1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない



Q13. 学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない
4. 当てはまらない 5. 学級の生徒との間で話し合う活動を行っていない



* 「1、2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができた」の割合は、県や全国と同程度。

「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」という割合が多いのに対し、「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」については、県や全国よりも低い傾向があります。

また、「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していた」という割合が県・全国に比べて低いことから、自分の考えを表現する活動において、資料や文章作りの工夫、タブレットの活用も含めた取組をすすめることにより、これらの取組が、「書くこと」だけでなく、「読むこと」「話すこと」の力がつくことにつながります。

(2) 全国学力・学習状況調査の学校質問紙からわかる状況

各校より出された回答の中で、成果及び課題と思われる点に絞って分析しました。

①成果とみられる項目

<小・中共通>

- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていますか。(小 100%、中 100%)
- 総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか。(小 100%、中 100%)
- 児童生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか。(小 100%、中 100%)

① 課題として考えられる項目

<小学校>

- △本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか。(小 70.0%/県 85.6%)

<中学校>

- △各教科で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。(中 33.3%/県 86.0%)

③結果を踏まえて

<小・中共通>

- 今後も、「総合的な学習の時間」において各教科で身に付けた力を生かしていく視点を持ち、由布学（幼・小・中・高）に取り組むたい。
- 主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、今後も児童生徒が互いの考えを深めたり、広めたりすることができる課題解決的な展開の授業を仕組みたい。

<小学校>

- 各教科において、タブレットの効果的な活用についての研修や図書館資料を活用した授業を、各教科や総合的な学習の時間で積み上げていきたい。

<中学校>

- 各教科で身につけたことが「将来、どのようなことに役立つのか」「どんな力がついていると言えるのか」等、学ぶ意義について、キャリア教育とともに各教科において、生徒に教えていく必要があります。

3 今後の「学力向上」に向けて

(1) 由布市の取組の重点に加え、定期的な補充学習を行うこと

小・中学校ともにこれまで補充学習等を中心とした取組を実施してきました。その取組の成果が全国学力・学習状況調査結果からもみてとれます。しかし、教科あるいは領域によっては、依然課題が残っている部分があることも確かです。

このことから、今後も定期の補充学習を継続実施するとともに、各校で実施した分析結果を基に、各教科における組織的な授業改善をさらに進めていきます。

(2) PDCAサイクルを充実させること。

分析した結果を、改善に生かさなければ意味はありません。今年度も学校ごとに調査結果を分析していますが、その後の取組にどう生かしていくのか、市・学校が一体となってその検証を行っていきます。検証する際の一つの手段として、年度末に実施する由布市独自調査も活用していきます。2学期以降の取組についての成果や課題を再確認していきたいと思えます。幸い、調査結果ではよい兆しが見えてきています。今後ますます、授業が充実するよう取組をすすめてまいります。

気になるのは、年度によって傾向が大きく変わっていることです。学年単位ではなく、学校全体で組織的、継続的に様々な取組を行っていきます。

(3) 学校生活を充実させること。

学校生活を充実させるためには、学習面・生活面の両面を充実させる必要があります。今後、特別活動や道徳を充実させていくことで、知・徳・体バランスのとれた児童生徒の育成に一層取り組みます。

* 中学校では3校が共通して取り組む内容を下記のように設定し取り組んでいます。

また小学校から取り組める内容については、小学校も共同歩調で取り組んできました。

内容の骨子としては、

～生徒と授業の目標や流れを共有するために～

① 新大分スタンダードに基づく授業改善（小学校兼）

② 児童・生徒による授業評価の導入（小学校兼）

③ 組織的な家庭学習の研究（小学校兼）

～世代交代期に対応した人材育成を行うために～

④ 3中学校合同教科部会の実施

⑤ 授業のタテ持ちによる指導力の伝承

～小学校独自プロジェクト～

⑥ 低学年から確実に力をつけていくための「基礎基本系統表」に基づく学力定着

上記の内容を、推し進め学年間や学校間や教科間で極端な結果の差が出ないようにしていきます。